

早稲田の栄光

リレー選手権の部(ME)優勝

早稲田大学・清水英仁

自分がゴールレーンを駆け抜けた瞬間、目標としてきたものが現実となった。1年間の、いや11年間の呪縛から解放された、そんな感じだった。

去年の山口インカレの失格という結果から一年間、私達は団体戦優勝ということをみんなが常に思ってきました。今年はみんなでいい意味で刺激しあっていたと思います。実際、直前になっても当の早稲田の人間でさえ誰が走るのか分からないというような状況で最後まで競ることができたのがこのような良い結果につながったのだと思います。自分自身もそういう緊張感の中にいたことで年間を通してコンスタントにトレーニングをすることができました。

団体戦当日は、一走の西村がトップゴールし、あとは安井、紺野の二枚看板で貯金を作るという正に目論見どおりの展開となり、自分自身はかなり楽に走ることができました。自分自身のレース内容はかなり納得のいかないものとなってしまいましたが早稲田としては最高の結果を残すことが出来たので満足しています。

私達はインカレに臨むにあたって自分たちはとにかく‘チャレンジャー’であるという意識を強く持つようにしました。こうすることで‘優勝’という名のプレッシャーをかなり和らげることができたように思えます。当日もおかげでメンバーは皆ほとんど無駄なプレッシャーを受けずに一人一人が最大限自分の実力を発揮できたと思います。

早稲田は来年は今度は追われる立場となりますが常にチャレンジャーだという意識で臨んで欲しいと思います。二連覇、期待しています。

このような結果を出すことができたのも一緒にがんばってきたOGのみんな、またいろいろな面で常にサポートしてくださった山内監督、オフィシャルの方々をはじめとするOB・OGの皆様がいたからだと思います。またこのような素晴らしい場を与えてくださった運営者の皆様、ありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。